

サイエンティフィック・イラストレーションにおけるアート性 Artistic Quality in a Scientific Illustration

*有賀 雅奈

*Kana ARIGA

サイエンティフィック・イラストレーション（以下、SI）とは科学的な知識・情報を記録・表現・伝達する図解のことです。歴史的には16世紀の近代科学の初期から様々な分野で科学のコミュニケーションを支えてきました。現代では学術論文、解剖書、図鑑、教科書、科学雑誌などで利用され、研究者同士あるいは科学と社会のコミュニケーション、教育などを担っています。

SIはアート作品とは異なる性質を持っています。SIの第一の目的は科学的知識・情報を誤解なく相手に伝えることです。これに対し、アートの目的は自己表現、創造、問題提起、美の追求などがあります。また、アート作品は見る側に解釈の自由があり、より感性に訴える傾向があります。

一方で、SIはアート作品としても機能します。例えば、動植物の博物画は鑑賞目的で展示されることが多くありますし、子供たちは宇宙のSIを見ながら太陽系の外側を自由に想像します。美しくクリエイティブないグラフィカル・アブストラクトは研究者の目をひくでしょう。このようにSIには科学的知識を伝えるだけではなく、アートとしての効果もみられます。では、そのようなSIの「アート性」はどこから来るのでしょうか。

この講演では、SIに内在するアート性について、描写対象そのものもつ美や魅力、科学的知識という人の知がもつ美や価値観、描き手の個性や創造性の3つに分けて整理し、議論します。

キーワード：サイエンティフィック・イラストレーション、アート、ビジュアル・コミュニケーション
Keywords: Scientific Illustration, Art, Visual Communication